

## 家族を看取った看護師のがんに対する態度構造

塚本 康子<sup>1)</sup>・奥 祥子<sup>2)</sup>・馬場 志乃<sup>1)</sup>・牛尾 禮子<sup>3)</sup>

An Analysis of Personal Attitudes Toward Cancer  
in the Nurses who have cared their Family

YASUKO, Tsukamoto<sup>1)</sup>; OKU, Shouko<sup>2)</sup>; BABA Shino<sup>1)</sup>;  
USHIO, Reiko<sup>3)</sup>

- 1) 静岡県立大学短期大学部 2) 鹿児島大学医学部保健学科  
3) 吉備国際大学保健科学部

### はじめに

がんがわが国における死亡順位の第一位を占めるようになって久しい。今までがんはさまざまに伝聞されてきたが、長い間不治の病として形容され、人々に恐れられてきた。しかし、近年は西洋医学の進歩もさることながら、さまざまな治療や代替医療がなされ、がんによってはそれほど生命を脅かすものではなくなった。こういう背景のもと、がんに対する人々の態度も変容してきているものと推測される。医療者の、特に患者の最も身近にいる看護師のがんに対する態度は、看護観や看護の質に影響を及ぼす。医療者はがんに対してどのような態度構造をもっているのか、本研究ではそれを解明していく。

態度とは、「対象に対する個々人の反応傾向の違いを説明（予測）するために設定された構成概念であり、『刺激と反応を仲介する個人の認知的・感情的・行動的な傾向を指す』<sup>1)</sup>。この態度は、事例研究法をとおして、その態度の決定因やメカニズムを発見することができるが、事例を数量的解析を用いて個人別態度構造を分析する Personal Attitude Construct（以下 PAC と略す）分析<sup>2)</sup>がある。医療者のがんに対する態度構造分析の一環として、筆者達はこの PAC 分析を用いて、看護学を学んでいる学生を対象に、がんに対する個々の態度構造を明らかにしてきた<sup>3)4)</sup>。まだ看護師としての経験がない看護学生のがんに対する態度には、臨地実習における体験、身近な人の病気体験や死の体験が構造化され、個人における体験を通してのイメージが根強く残っていた。看護師では、臨床経験を積む中でさまざまな体験をしているだろうし、その体験は個人としてのがんに対する態

度構造にも影響しているものと思われる。本研究では、がんの家族を看取った看護師のがんに対する態度構造を明らかにすることを目的とする。

### 用語の定義

本研究では、態度は個人がこれまでの体験や情報などに影響を受けたものであり、行動や言葉、行為の傾向をもとに推論したものとする。

### 研究方法

1. 対象：がんの家族を看取ったことのある看護師 2 名。体験のない看護師 1 名。

対象 A：30 歳代、女性。臨床経験は 6 年。実母のがん闘病と、在宅での看護、看取りを体験している。

対象 B：50 歳代、女性。現在、公立総合病院の小児科病棟勤務。実父のがん闘病と死の看取りを体験している。

対象 C：29 歳、女性。臨床経験は 8 年。現在、公立総合病院の看護師。家族のがん闘病体験はない。

### 2. 研究手続き

研究の趣旨と方法を説明した上で、自ら参加を希望し同意を得られた看護師を対象とした。PAC 分析を実施し、個別に面接調査を行った。PAC 分析は、「テーマに関する自由連想、連想項目間の類似度評定、類似度距離行列によるクラスター分析、被験者によるクラスター構造のイメージや解釈の報告、実施者による総合的解釈を通じて、個人毎に態度やイメージの構造を分析する方法」<sup>5)</sup>である。この方法は、「操作的・実験的・(記述)統計学的手法と、間主観的・カウンセリング的・事例記述的手法の両者が包含されている」ために、「現実の人間行動を幅広く相対化してみることができる」<sup>6)</sup>、とされている。

### 3. 分析の方法

1) 刺激文 - 対象に、がんに関する連想刺激文「あなたがこれまで生活してきた中で、がんについて考えた場面を思い出してください。どんなときにがんという病気を感じましたか？がんはどのような病気だと思っていますか？頭に浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に、番号をつけてカードに記入してください」を呈示し、口頭で読み上げた。がんについてのイメージを連想させ、項目の一つ一つをカードに記入するよう求めた。

2) 重要順位 - 対象に、「あなたにとって重要と感じられる順に、カードを並び替えてください」と連想項目カードの重要順位を質問し、順位を記入した。

3) 教示と評定尺度 - 対象に、「あなたがあげたイメージや言葉の組み合わせが、言葉の意味ではなく、直感的イメージの上でどの程度にているかを判断し、その近さの程度を該当する数字で答えて下さい」と言い、「非常に近い：1」から「非常に遠い：7」まで7つの評定尺度を呈示し、連想項目カード毎に類似度距離を7段階で自己評定させた。

4) 分析 - 統計ソフト HALWIN (Ver.6) を用いて、クラスター分析を行った。

5) 分析結果の提示と内容の解釈 - 対象に、クラスター分析の結果得られた樹状図を提示し、項目のグループから浮かんだイメージ、内容のまとまりについて質問した。会話内容は、

対象の許可を得てテープに録音し、逐語的に記録した。その結果を総合的に解釈した。

## 結果

### 1 対象 A

#### (1) 連想項目

対象の想起項目は表 1 のとおりである。PAC 分析を開発した内藤によれば、重要順位の高い項目は、「主訴」に該当し、どのような内容を重要と感じているのかが明らかになる、としている。対象は、母親の死、父親、家族、絆、和、ケア、涙、苦しい、悲しいを重要と感じていることが示唆された。

#### (2) 樹状図

樹状図は図 1 のとおりである。対象自身の解釈によると、全体的に亡くなった母親を看取ったときのこと、特に家族のことが影響していると述べている。第一のクラスターは「母親の死」から「葛藤」までの 10 項目で、これらは母親を看取ったときの家族の絆の大事さに関するイメージだといえる。このクラスターは「母親の死と家族の絆意識」と名付けた。

第二のクラスターは、「楽しかった」から「治りにくい」までで、母親の闘病生活をイメージしている。苦しかったけど「楽しかった」と述べている。このクラスターを「母親と過ごした期待と絶望の闘病」と名付けた。

第三のクラスターは、「本」から「病院」までの 6 項目である。対象者はがんに対する一般論と解釈したが、それでも「介護」や「末期」、「治療」は母親の闘病中のイメージだと述べている。このクラスターを「母親の闘病と一般論的視点」と名付けた。

#### (3) 総合的解釈

総合的解釈として、がんに対する態度のクラスター構造は、亡くなった母親とのがん闘病体験から得た家族の絆意識と

Table 1 連想項目一覧

想起順	内 容	重要順
1	母親の死	1
2	早期	22
3	末期	21
4	治りにくい	17
5	治ることもある	16
6	可能性	15
7	治療	20
8	本	18
9	すがりたい	12
10	悲しい	9
11	家族	3
12	病院	23
13	父親	2
14	葛藤	10
15	重い	14
16	苦しい	8
17	絆	4
18	和	5
19	介護	19
20	楽しかった	11
21	ケア	6
22	ショック	13
23	涙	7



Fig1 対象 A の樹状図

その闘病生活、母親の闘病に対する一般論的視点の三つのクラスターによって構成されていた。対象は3年前に母親をがんで亡くしている。その母親と家族との闘病体験が「がん」に対する態度に強烈な印象として残っていた。看護師という職業意識の前に、対象者自身が体験した母親の闘病、闘病中の社会心理的反応が、がんに対する態度を決定づけていた。

対象のクラスター構造は、〈母親の死と家族の絆意識〉 〈母親と過ごした期待と絶望の闘病〉 〈母親の闘病と一般論的視点〉というように図式化された。

## 2. 対象 B

### (1) 連想項目

対象の想起項目は表2のとおりである。対象は21項目あげられたが、その中で、「家族」、「子ども」、「父」、「母」、「夫」を重要と感じていることが示唆された。

### (2) 樹状図

樹状図は図2のとおりである。

対象自身の解釈によると、全体的に亡くなった父親を看取ったときのこと、特に家族のことが影響していると述べている。第一のクラスターは「家族」「母」「子ども」「夫」までの4項目で、これらは家族の大事さがそのまま表現されているが、その背景には父親を看取ったときの後悔があると思う、と自ら述べている。

このクラスターは「深い家族意識と対峙する父親の看取りに対する過去の潜在的後悔」と名付けた。

第二のクラスターは、「父」「治ってほしい」「不治の病」「胃がん」「怖い」「バリウム」「大切な友人」から「手術」までの17項目で、父親と友人の闘病生活と臨床における看護の実際をイメージしている。がん看護には長年携わっておらず、「避けたい」としており、看護していてもがんは「治らない」し、「つらい」と語っている。また「大切な友人」が「胃がん」であり、同時に臨床でのがん治療がイメージされている。このクラスターを「身近な人の闘病体験と絶望からの逃避」と名付けた。

Table 2 連想項目一覧

想起順	内 容	重要順
1	死につながる	16
2	怖い	15
3	不治の病	8
4	手術	20
5	父	3
6	母	4
7	胃がん	12
8	病院	17
9	バリウム	13
10	早期発見	11
11	医師	19
12	なぜ、どうして?	10
13	家族	1
14	避けたい	9
15	治療	18
16	治ってほしい	7
17	大切な友人	6
18	子ども	2
19	夫	5
20	抗癌剤	21
21	るいそう	14

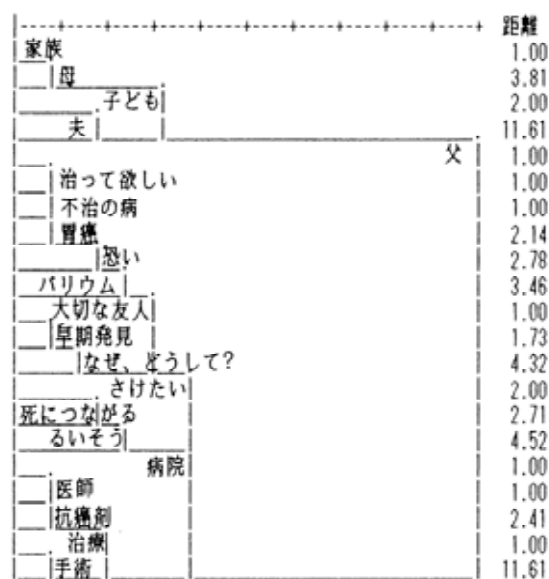


Fig2 対象 B の樹状図

### (3)総合的解釈

総合的解釈として、対象Bにおけるがんに対する態度のクラスター構造は、亡くなった父親の闘病体験と対峙するようにある深い家族意識、身近な人の闘病体験と深く根付いている絶望的イメージと逃避、という二つのクラスターによって構成されていた。

対象は何十年か前に父親をがんで亡くしている。その父親と家族との闘病体験は、すでに意識下にはなかったという。しかし自ら語り、分析をしながら、潜在化していた父親の看取りに対する後悔が、自覚しながら表出されていった。対象自ら整理されていなかった自分自身の感情に気付いたという。それは、「がん」に対する態度に強烈な印象として残っていた。看護師という職業意識の前に、対象者自身が体験した父親の闘病が、がん看護を避けるという反応につながっていることも示唆された。

対象のクラスター構造は、＜深い家族意識と対峙する父親の看取りに対する過去の潜在的后悔＞ ＜身近な人の闘病体験と絶望からの逃避＞というように図式化された。

対象A、Bは家族のがん闘病体験をしていた。一方、同じ医療者でもそういった体験をしていない場合、がんに対してどのような態度構造をもつのだろうか。次にあげる対象Cは、家族のがん体験や看取ったという体験はない。

## 3. 対象C

### (1)連想項目

対象の想起項目は表2のとおりである。

重要順位の高い項目は、「家族が悲しむ」「離ればなれ」「死」「怖い」「かかりたくない」であり、対象は、これらを重要と感じていることが示唆された。

### (2)樹状図

樹状図は図3のとおりである。第一のクラスターは「母親が悲しむ」「離ればなれ」「子ども」「死」「怖い」「葬式」「不安」「泣く」「苦しい」「痛い」「治療」までの11項目である。8年前、看護師になったばかりの新人の時、がん患者を担当した時の印象だと語っている。小さな子供の母親である患者で、治療の甲斐なく亡くなっている。その時の印象が強く残っており、がんイコール死というイメージ強いといっている。このクラスターは「看護師体験からの死という負のイメージ」と名付けた。

第二のクラスターは、「かかりたくな

Table 3 連想項目一覧

想起順	内 容	重要順
1	治らない	10
2	死	3
3	再発	15
4	告知	13
5	本人は知らない	12
6	不安	9
7	苦しい	7
8	痛い	8
9	治療	17
10	かかりたくない	5
11	健康	6
12	怖い	4
13	家族が悲しむ	1
14	離ればなれ	2
15	病院	16
16	葬式	21
17	知りたくない	11
18	手術	14
19	寝たきり	18
20	泣く	20
21	子ども	22
22	やせていく	19

い」「知りたくない」から「寝たきり」「やせていく」までの 11 項目で、臨床の現実の状況をイメージしている。負のイメージは強く、自分自身もかかりたくない、と述べている。このクラスターを「第三者的にみる現場の状況と自分自身の気持ち」と名付けた。

### (3) 総合的解釈

身近にがん闘病体験のない対象 C は、新人の頃に体験した患者の闘病と死の体験が負のイメージとして強く残っていた。怖いから関わりたくない、と対象自身が

語っているように、できればがん看護からは避けていたい、という。以前はホスピスのような終末期医療に携わりたいと考えていたというが、経験を積む中でホスピスとのギャップ、理想と「痛い」という現実とのギャップに気付き、避けたいと考えるようになった。対象自身が語っているように、がんに対する態度は常に第三者的で、クラスター構造は、<看護師体験からの死という負のイメージ> <第三者的にみる現場の状況と自分自身の気持ち> というように図式化された。

### 考察

がんに対するイメージは、スーザン・ソクタグが「隠喩としての病い」<sup>7)</sup>で述べているように、病気のイメージや言語表現で隠喩として扱われることによって、がんに対する固定観念やイメージ・態度が作り上げられる。しかしながら、私たち看護職は専門的な知識を持つわけであり、そのイメージだけで疾患を捉えることはないだろう、それが今回調査の問題提起である。

がんはその病名だけで負のイメージが強いが、社会人と大学生を対象として、SD法を用いてがんに対するイメージを実証した大木の調査結果がある<sup>8)</sup>。それによると、がんは非常に「悪く」、かなり「暗く」「現実的」で、「張りつめており」「不安定」で、「複雑な」ものであるというイメージが持たれている、という。筆者達は先行研究として、PAC分析を用いて、看護学生のがんに対する態度構造を明らかにしてきた<sup>3・4)</sup>。看護学生は一般的なこういったイメージも持っているのだろうが、学生は実習などの学習体験や身近な人の闘病体験をとおして、負のイメージと同時に、家族などに支えられ、闘い、生活している患者というイメージも態度として構造化していた。

がんに対する個人内態度構造を明らかにすることは、「個の独自性」の解明に繋がる。父親を看取った体験を持つ看護師にとって、父親の闘病体験とその時の後悔が、また、母親を看取った看護師では闘病体験とそれに対する心理社会的反応が、がんに対する態度として根強く構造化されていることが明らかとなった。専門職である看護師といえども、個人としての体験とその時の心理社会的反応が専門家としての態度より優位に立っている構



Fig3 対象 C の樹状図

造が明らかにされた。このことについて、坂口らは<sup>9)</sup>、ホスピスでガンのために家族を亡くした家族を対象に質問紙調査を行い、家族との死別による二次的ストレスを明らかにし、8項目に分類している。すなわち、家族成員間の問題、社会生活に関する困難、家族生活に関する困難、生活環境の変化、不十分なサポート、親族との対立、死別後の雑事、経済的困難である。遺族は家族を亡くしただけでなく、その喪失に関連したさまざまな困難を経験する可能性を示唆しており、さらにそれらによって精神的健康も阻害されることを示唆している。患者の家族としてのこういった体験が、態度の根底に関わっているものと推測された。

家族の闘病を体験したことがない看護師の事例分析も意味がある。臨床体験の中で、がんに対して負のイメージが構造化されたとき、それは「関わりたくない」という感情に取って代わっていた。特に就職して間もない新人の時に関わった患者のイメージは、がんイコール死として根強く残っていた。筆者達が行った、看護学生を対象とした死に対する態度の調査でも<sup>10)</sup>、受け持った患者が亡くなったときの衝撃が大きく、それは身近な人と同様に死の体験に加えられていた。看護師として患者の死に立ち会うことは、免れないことであるし、その人らしい死をむかえるための看護は私たち看護職の専門性でもある。看護職として独自の看護を提供していくために、「関わりたくない」感情をもつ自分自身を理解すること、またそういう感情を持つ看護師の看護労働に対する看護管理が課題としてあげられた。

家族の闘病と看取りの体験は、看護師のがんに対する態度構造に根強く残っている。臨床経験における負のイメージも態度に構造化されている。看護は「感情労働」<sup>11)</sup>といわれているが、まさにそれを裏付ける結果でもあり、看護師個々の態度構造を明らかにしつつ、自分自身の特性を知る必要性が改めて認められた。

## 引用文献

- 1) 内藤哲雄、PAC 分析実施法入門、ナカニシヤ出版、p 〃、1997 .
- 2) 内藤哲雄、PAC 分析実施法入門、ナカニシヤ出版、1997 .
- 3) 塚本康子・奥祥子・伊東志乃・牛尾禮子、看護学生のがんに対する態度構造、日本看護学教育学会学術集会、2002 .
- 4) 塚本康子・奥祥子・伊東志乃・牛尾禮子、看護学生のがんに対する態度構造 - 臨地実習終了後、日本看護学教育学会学術集会、2003 .
- 5) 内藤哲雄、PAC 分析実施法入門、ナカニシヤ出版、p 1、1997 .
- 6) 内藤哲雄、PAC 分析実施法入門、ナカニシヤ出版、p 4、1997 .
- 7) スーザン・ソンドク、富山太佳夫訳、隠喩としての病い エイズとその隠喩、みすず書房、1992 .
- 8) 大木桃代、ガンという言葉の心理的意味、ガン患者ケアのための心理学 - 実践的サイコoncology、真興交易医書出版部、p14 ~ 21、1997 .
- 9) 坂口幸弘・柏木哲夫・恒藤暁、家族の死に関連して生じるストレス - 「二次的ストレス」に関する探索的検討、家族心理学研究 13 (2)、p77-86、1999 .

- 10) 奥祥子・塚本康子・堀内宏美・日浦瑞枝・中俣直美・牛尾禮子、看護学生の死についての態度構造、鹿児島大学医学部保健学科紀要 第14巻、p13-19、2004.
- 11) 武井麻子、感情と看護、医学書院、2001.

(2004年8月17日 受理)